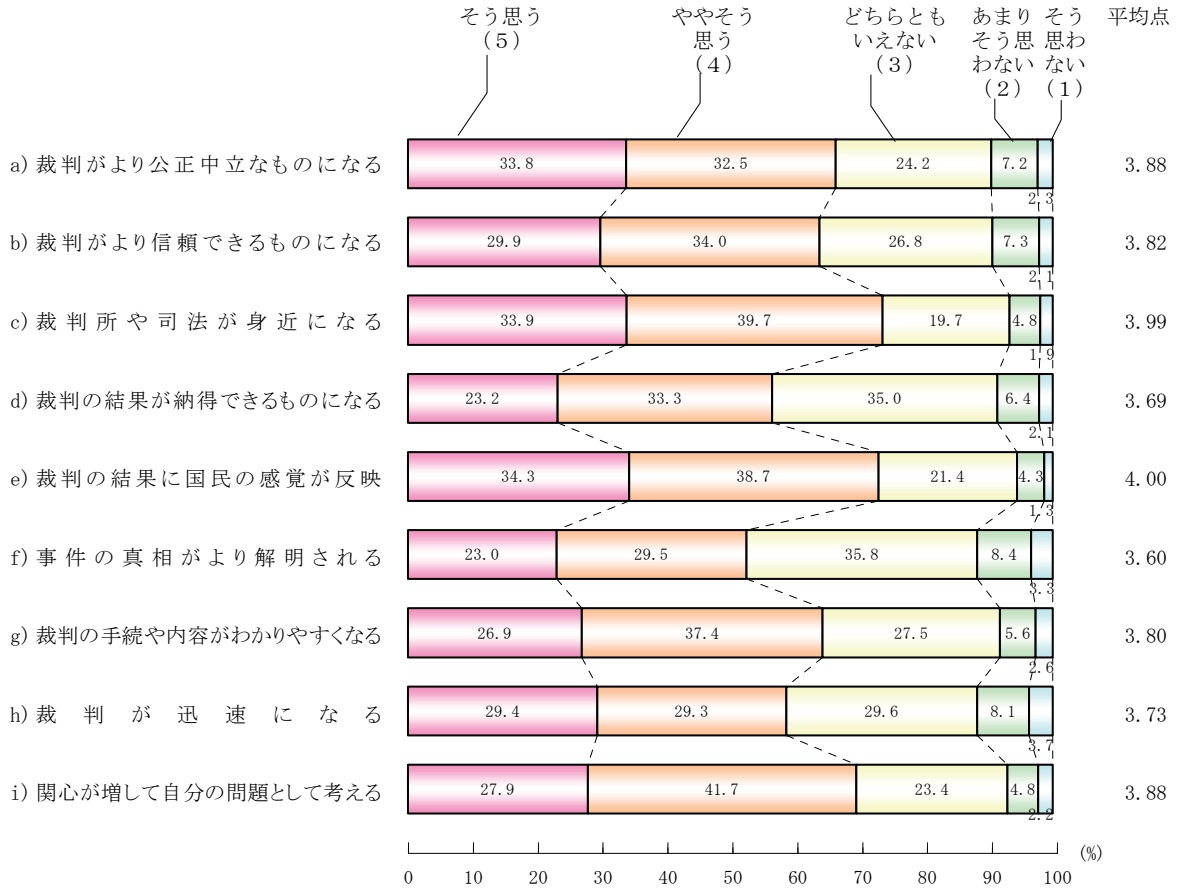


6 裁判員制度の実施により、期待すること

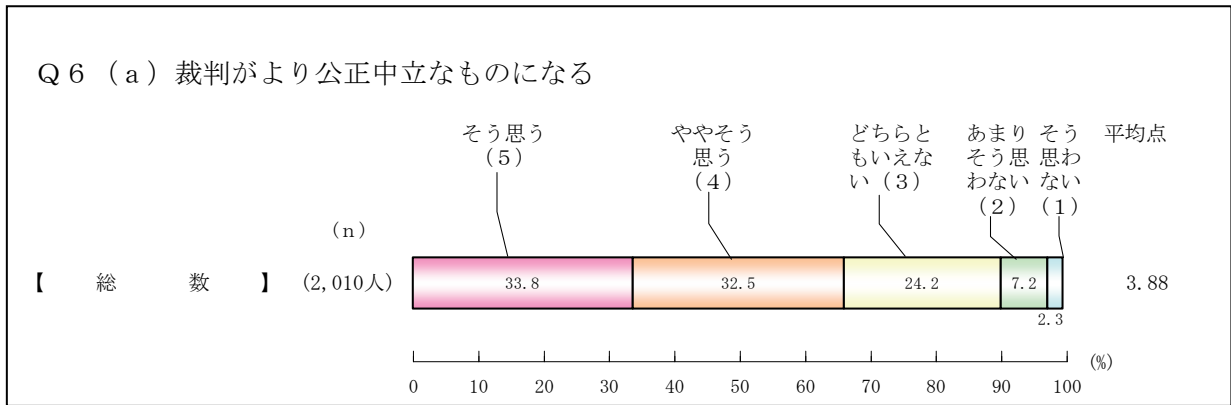
Q6 [回答票6] あなたが裁判員制度の実施により、期待することは何ですか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=2010人)

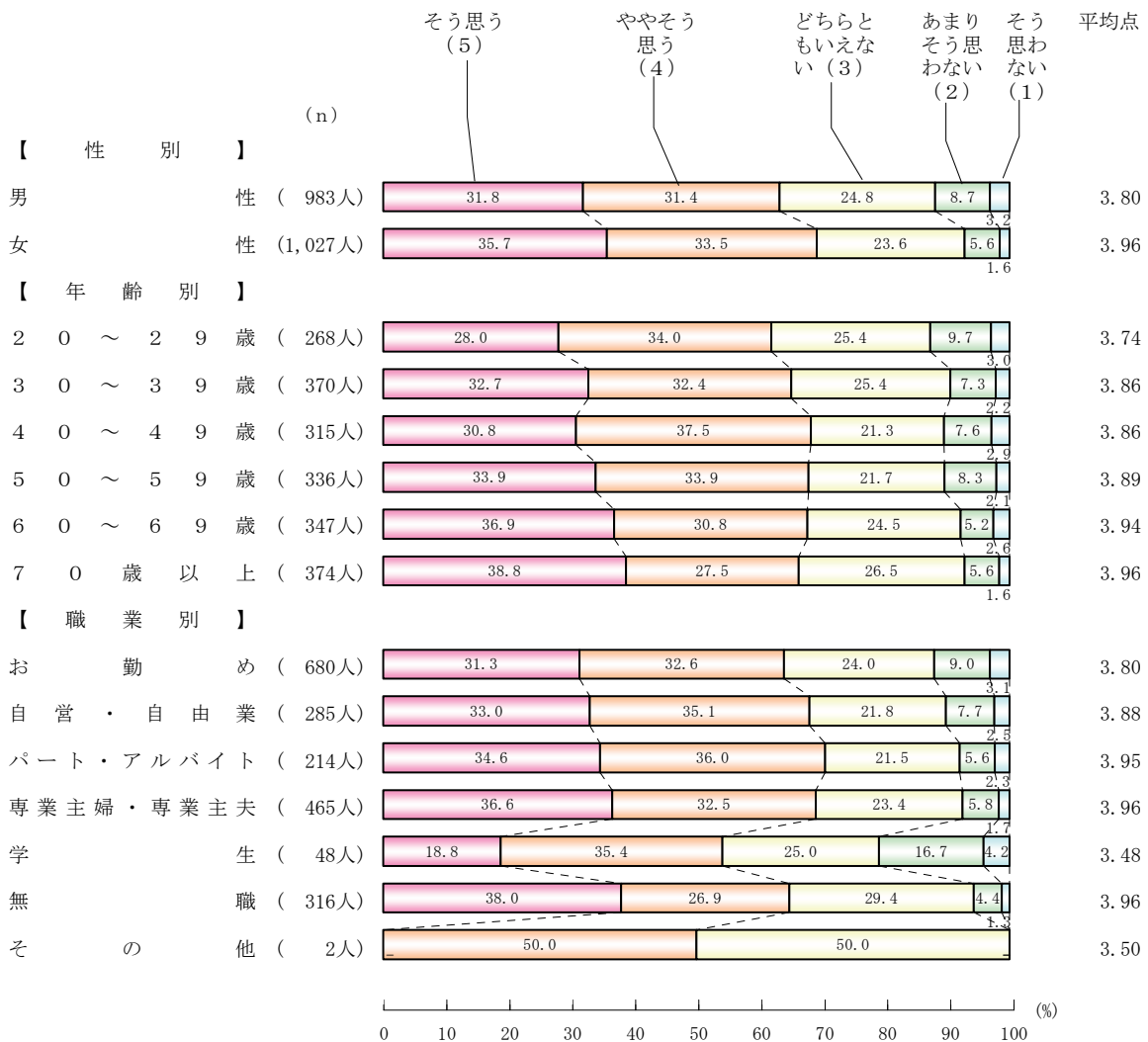


* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

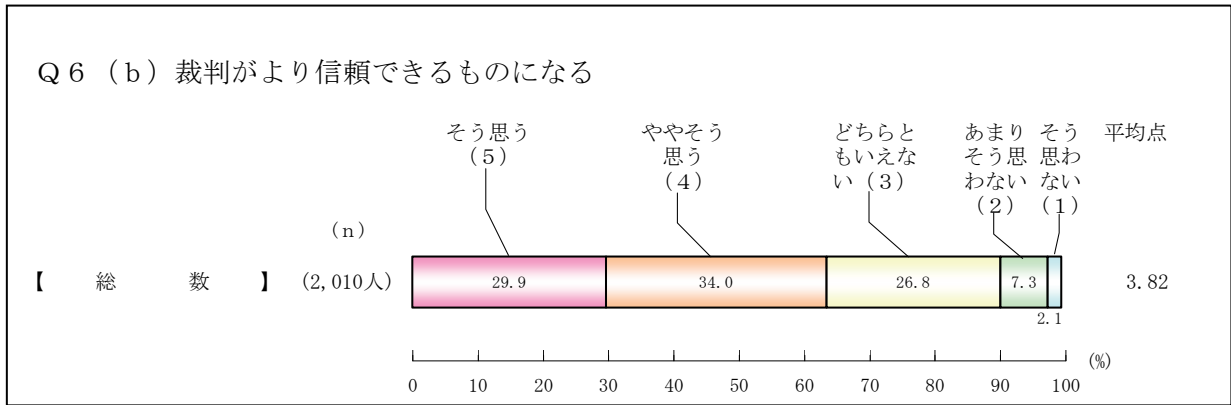
裁判員制度の実施により、期待することを、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』（4.00点）、以下、『裁判所や司法が身近になる』（3.99点）、『裁判がより公正中立なものになる』（3.88点）、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』（3.88点）、『裁判がより信頼できるものになる』（3.82点）、『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』（3.80点）、『裁判が迅速になる』（3.73点）、『裁判の結果（判断）がより納得できるものになる』（3.69点）、『事件の真相がより解明される』（3.60点）となっている。



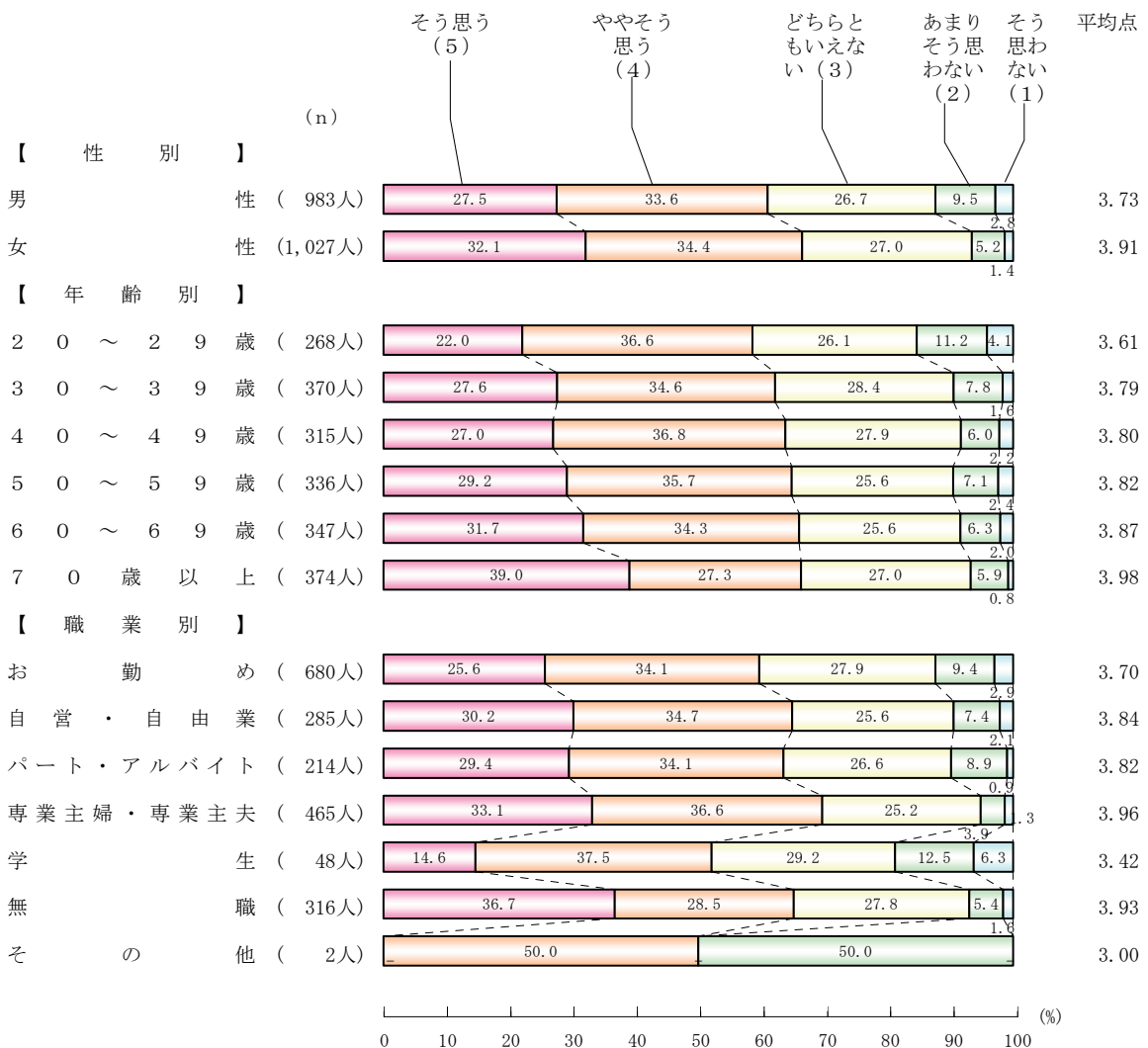
裁判員制度の実施により『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 66.3%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 9.5%である。



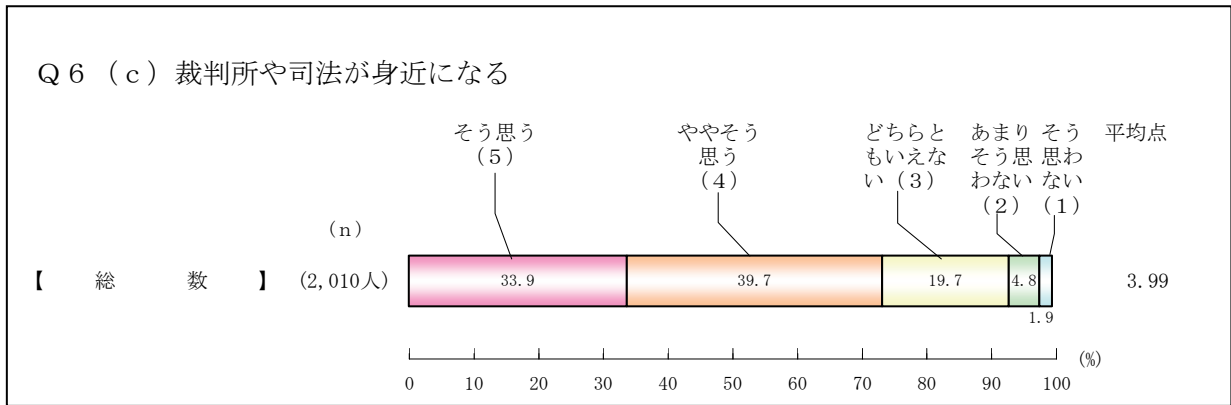
『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女別にみると、男性より女性のほうが高く、年齢別にみると、あまり差はみられない。



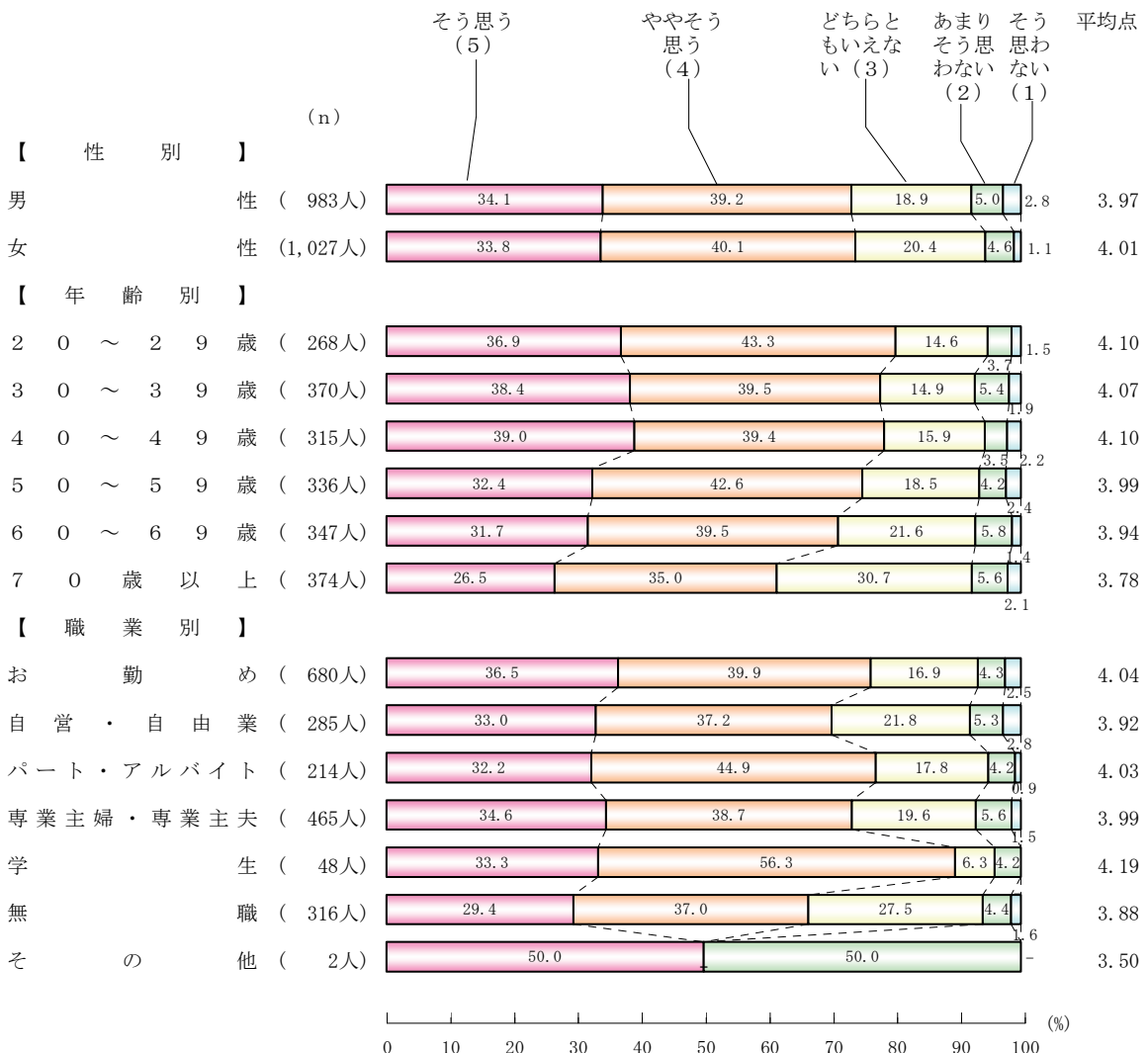
裁判員制度の実施により『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は63.9%、一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.4%である。



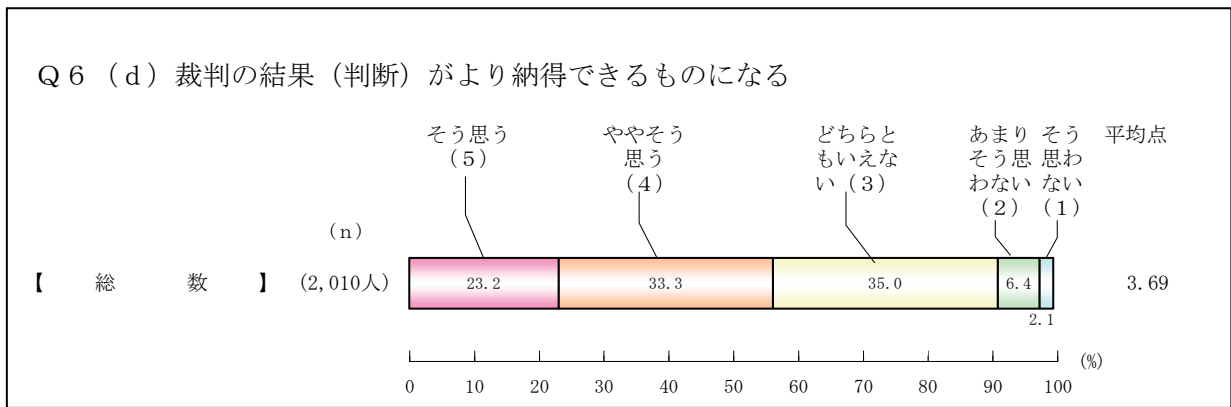
『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女別にみると、男性より女性のほうが高く、年齢別にみると、あまり差はみられない。職業別にみると、専業主婦・専業主夫で高くなっている。



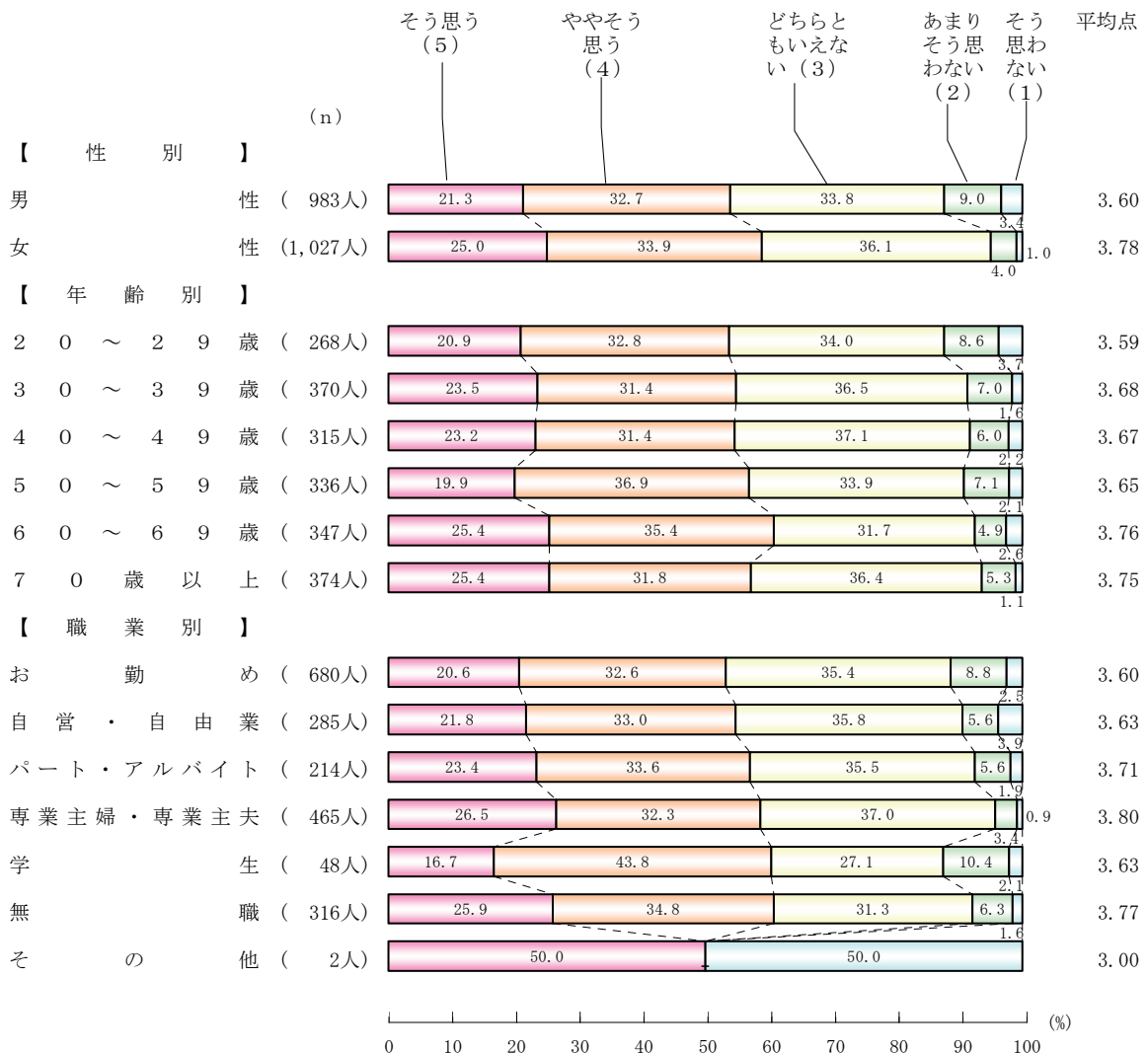
裁判員制度の実施により『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は73.6%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は6.7%である。



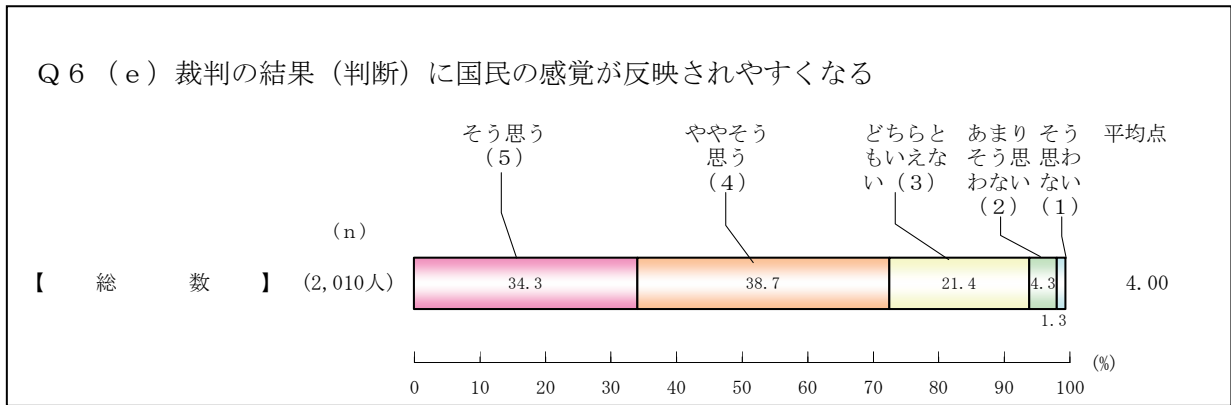
『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女の差はみられないが、年齢別にみると、20代で最も高く、70歳以上で最も低くなっている。また職業別にみると、学生で高く、無職で低くなっている。



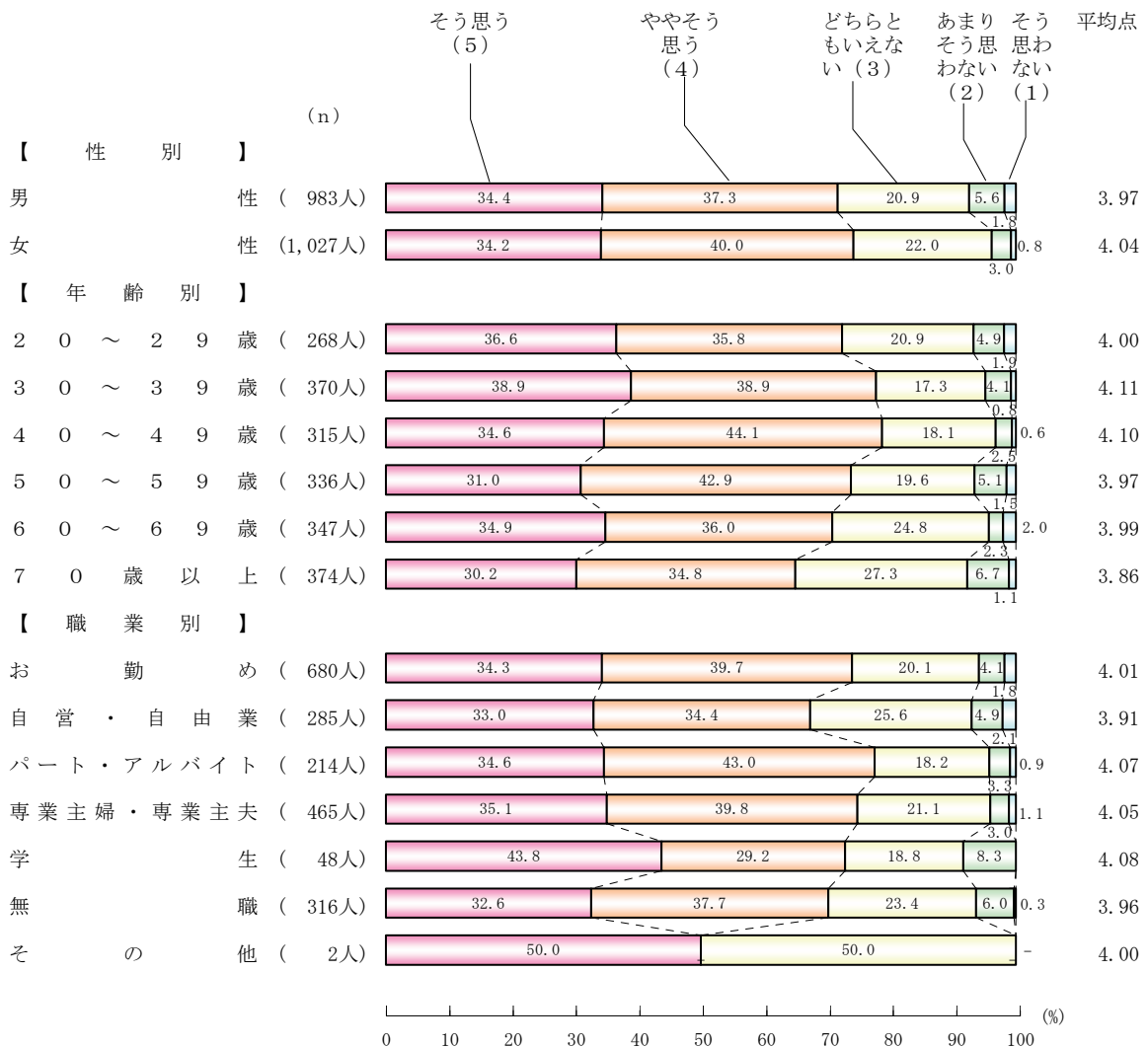
裁判員制度の実施により『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は56.5%、一方、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は8.5%である。



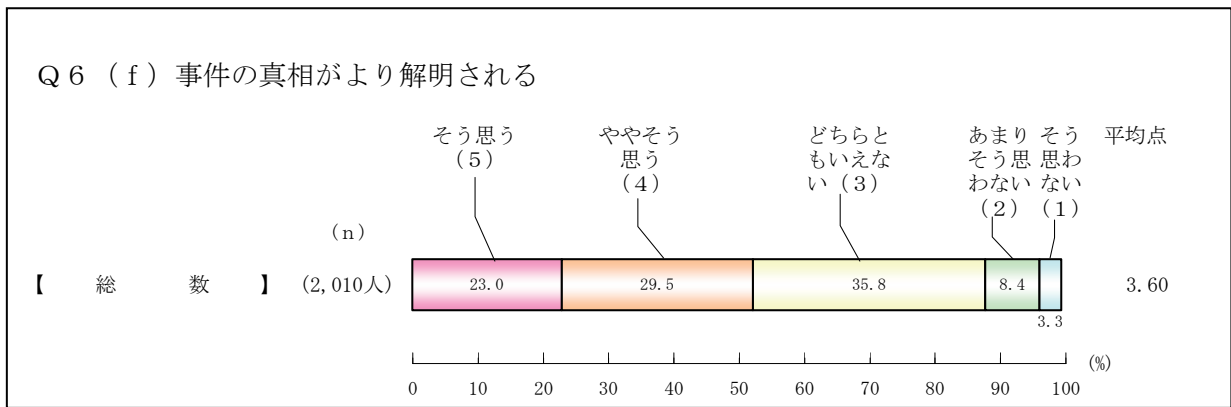
『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えたのは、男女別にみると、男性より女性のほうが高く、年齢別にみると、あまり差はみられない。職業別にみると、お勤めで低くなっている。



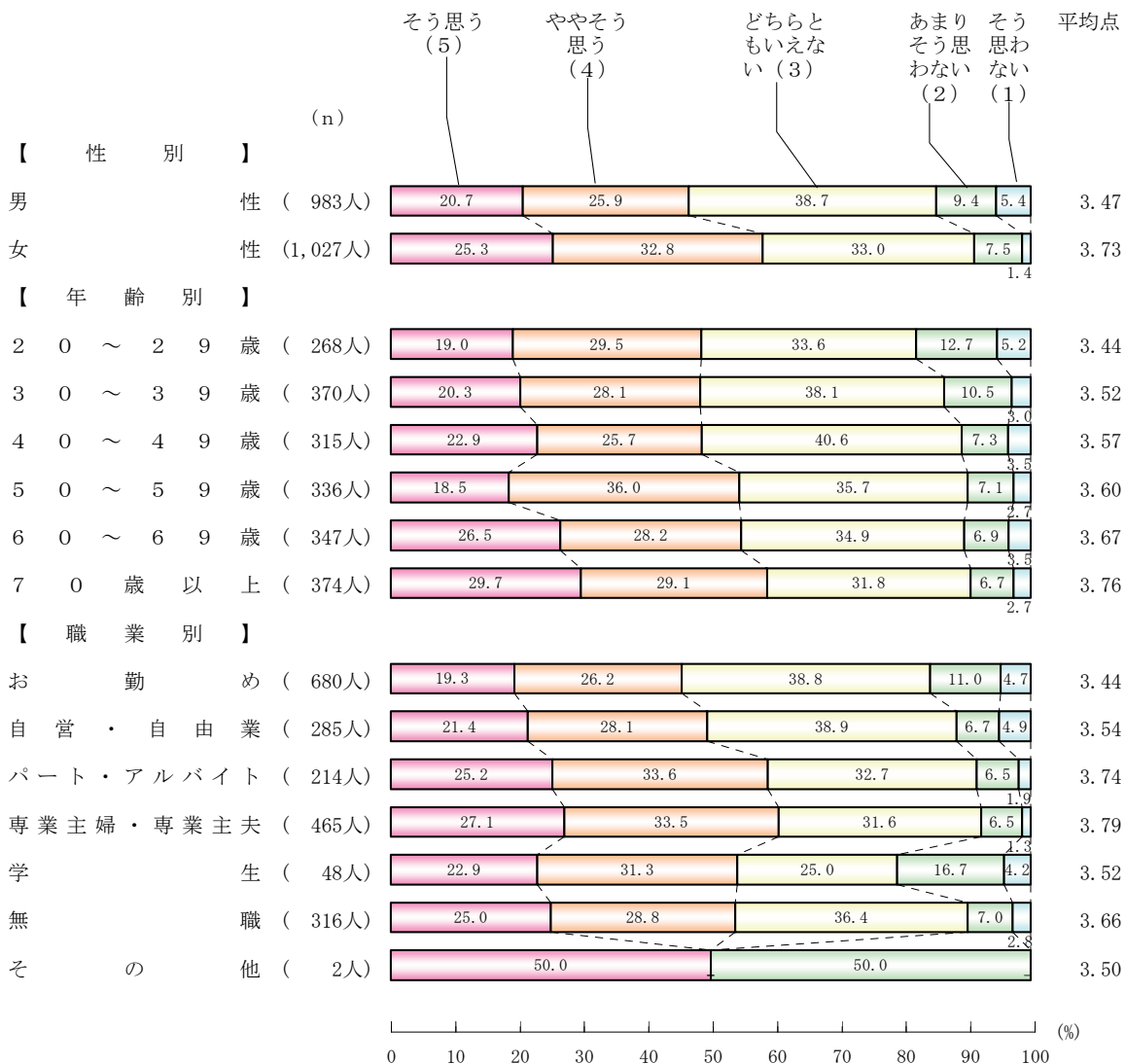
裁判員制度の実施により『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は73.0%、一方、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は5.6%である。



『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えたのは、男女では大きな差はみられないが、年齢別みると、30代・40代で高く、70歳以上で低い。職業別みると、自営・自由業で最も低くなっている。

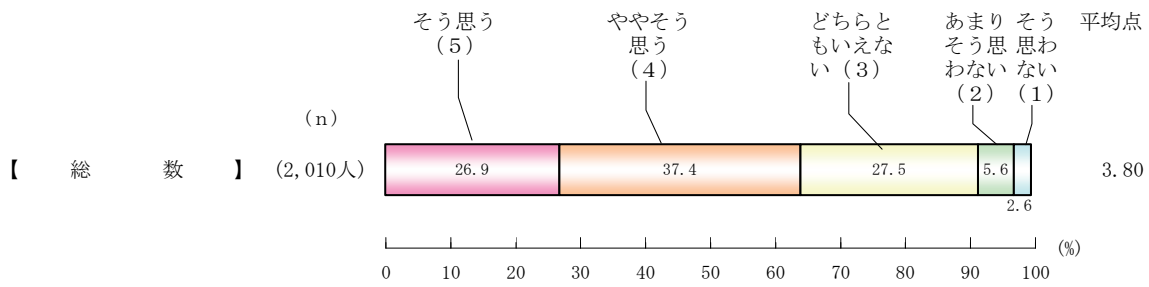


裁判員制度の実施により『事件の真相がより解明される』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は52.5%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.7%である。

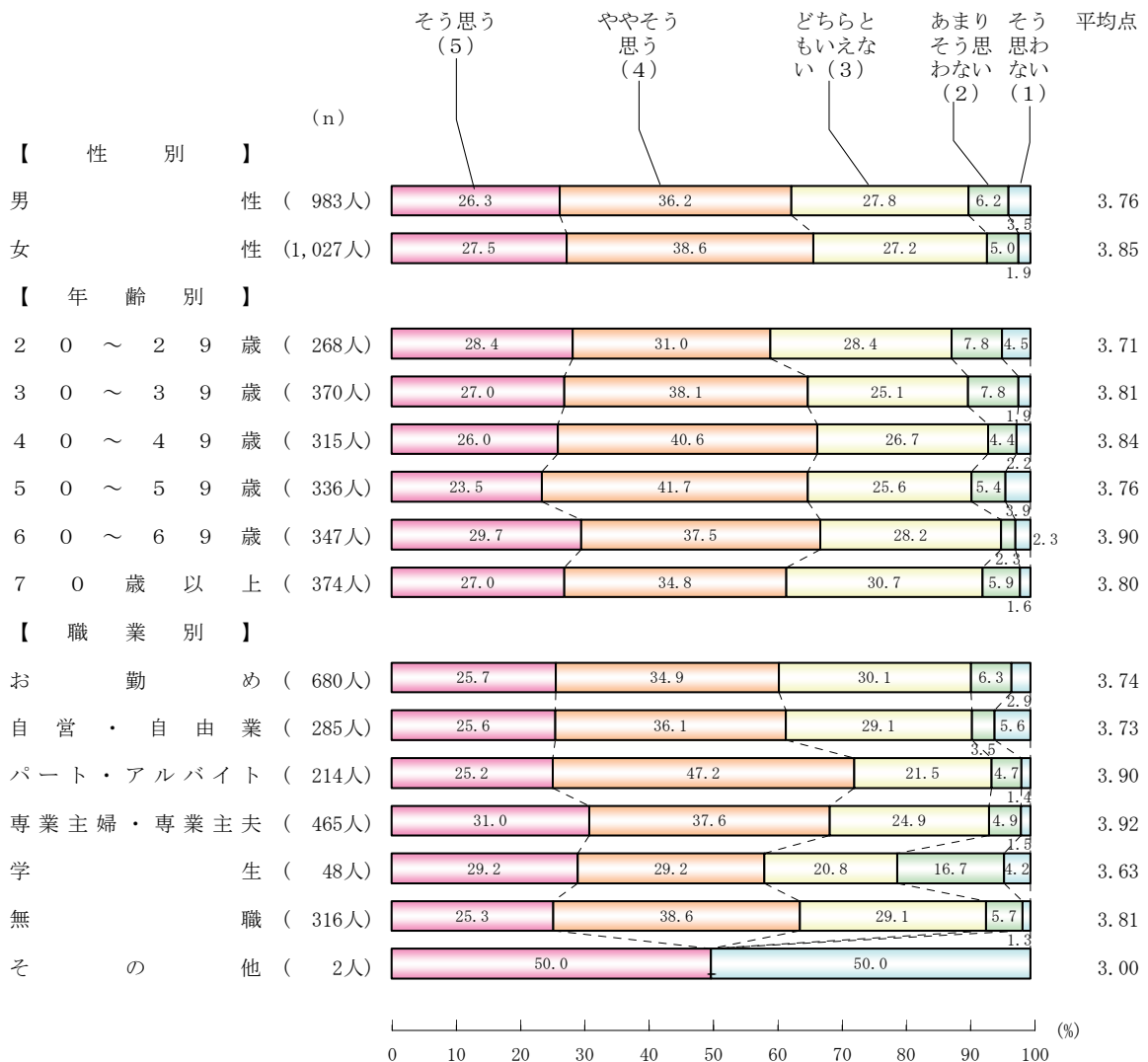


『事件の真相がより解明される』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女別にみると、男性より女性のほうが高く、年齢別にみると、70歳以上で最も高い。また職業別にみると、専業主婦・専業主夫、パート・アルバイトで高く、お勤めが最も低くなっている。

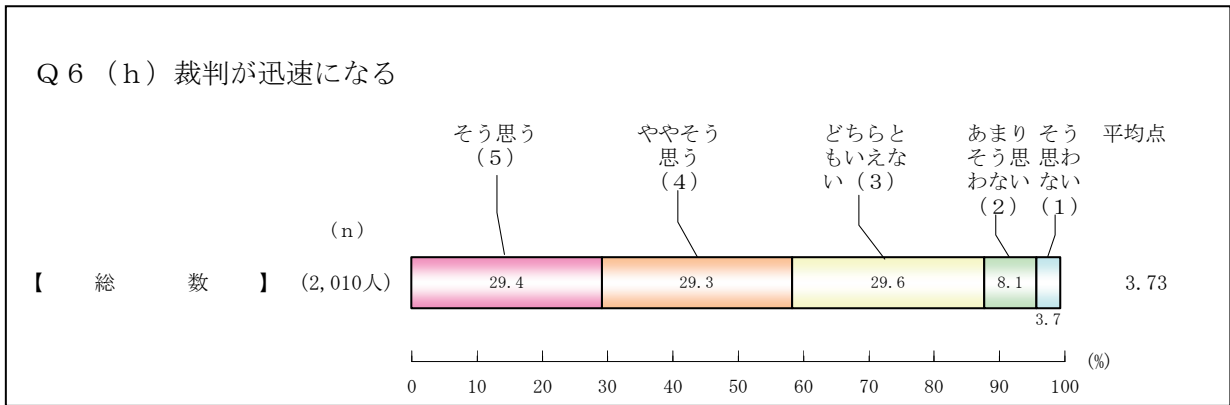
Q6 (g) 裁判の手續や内容がわかりやすくなる



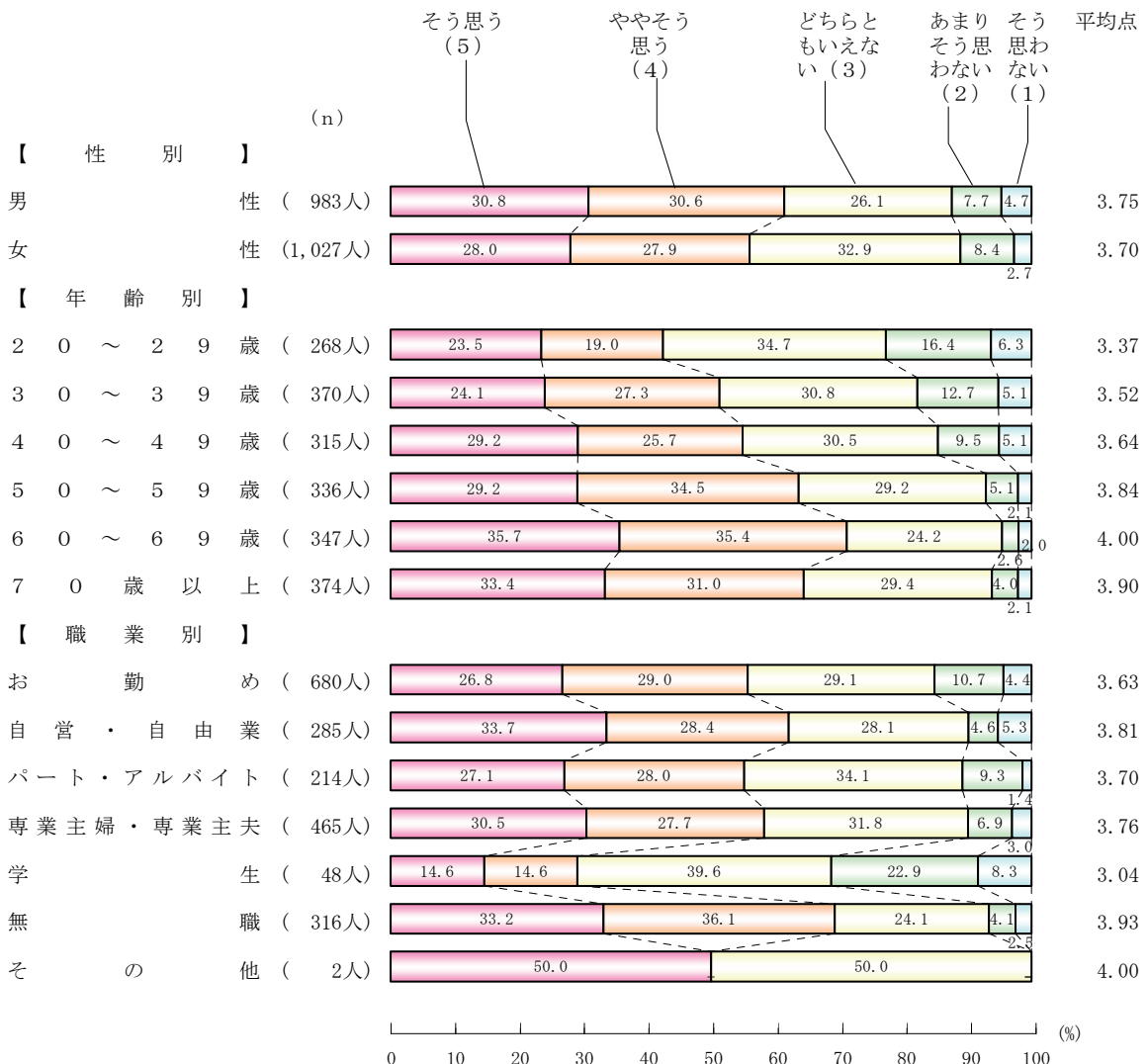
裁判員制度の実施により『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は64.3%、一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は8.2%である。



『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、性別・年齢別では大きな差はみられない。また職業別にみると、パート・アルバイトや専業主婦・専業主夫で高くなっている。

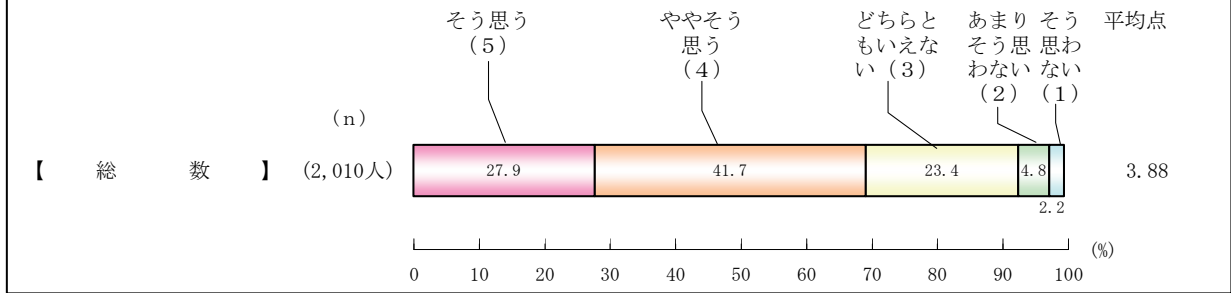


裁判員制度の実施により『裁判が迅速になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は58.7%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.8%である。

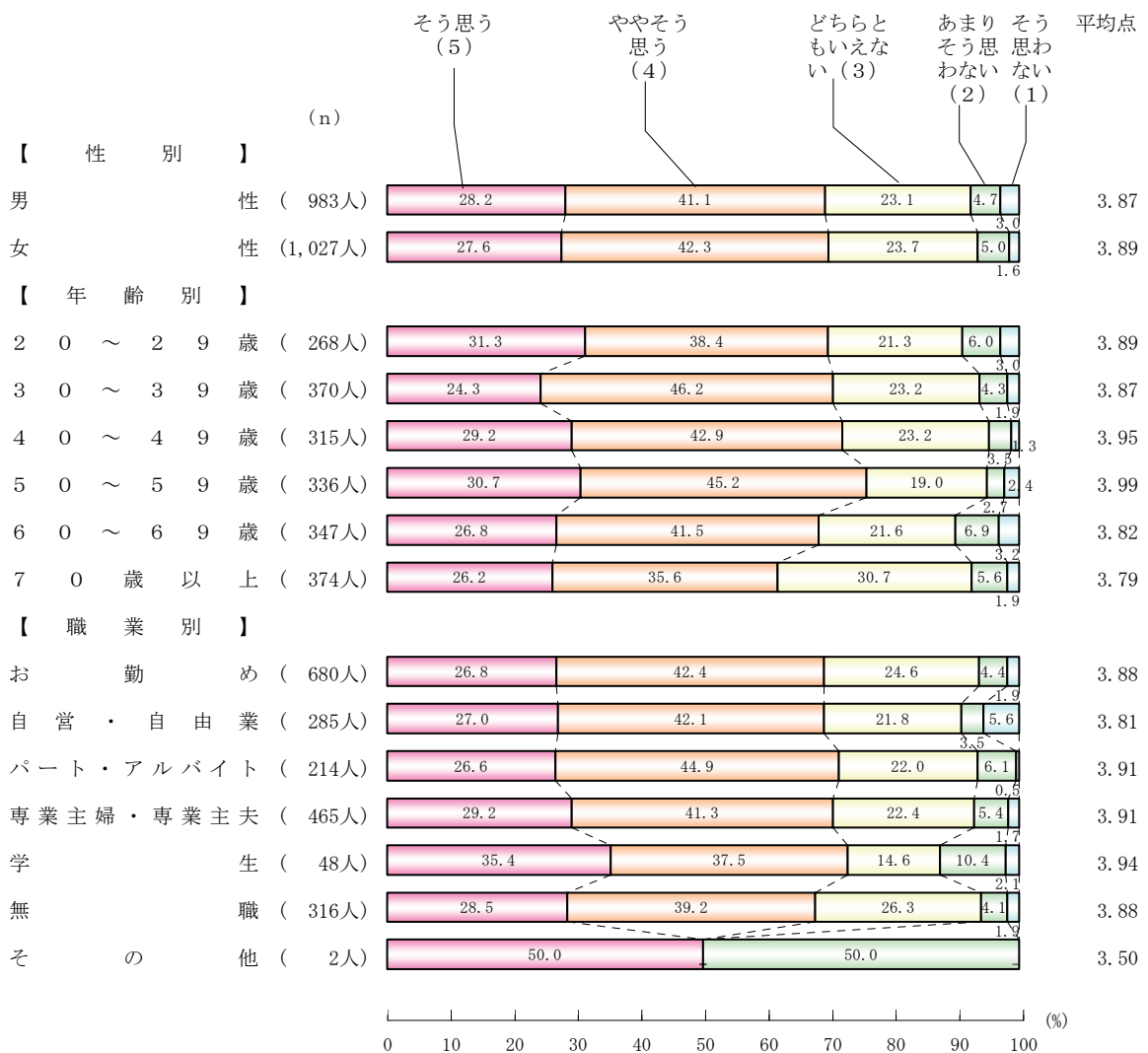


『裁判が迅速になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女別にみると、女性より男性が高い。年齢別にみると、20代・30代の若年層が低く、60代で最も高いなど高齢層で高い傾向がある。職業別にみると、無職で最も高く、学生で最も低くなっている。

Q6 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる



裁判員制度の実施により『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は69.6%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は7.0%である。

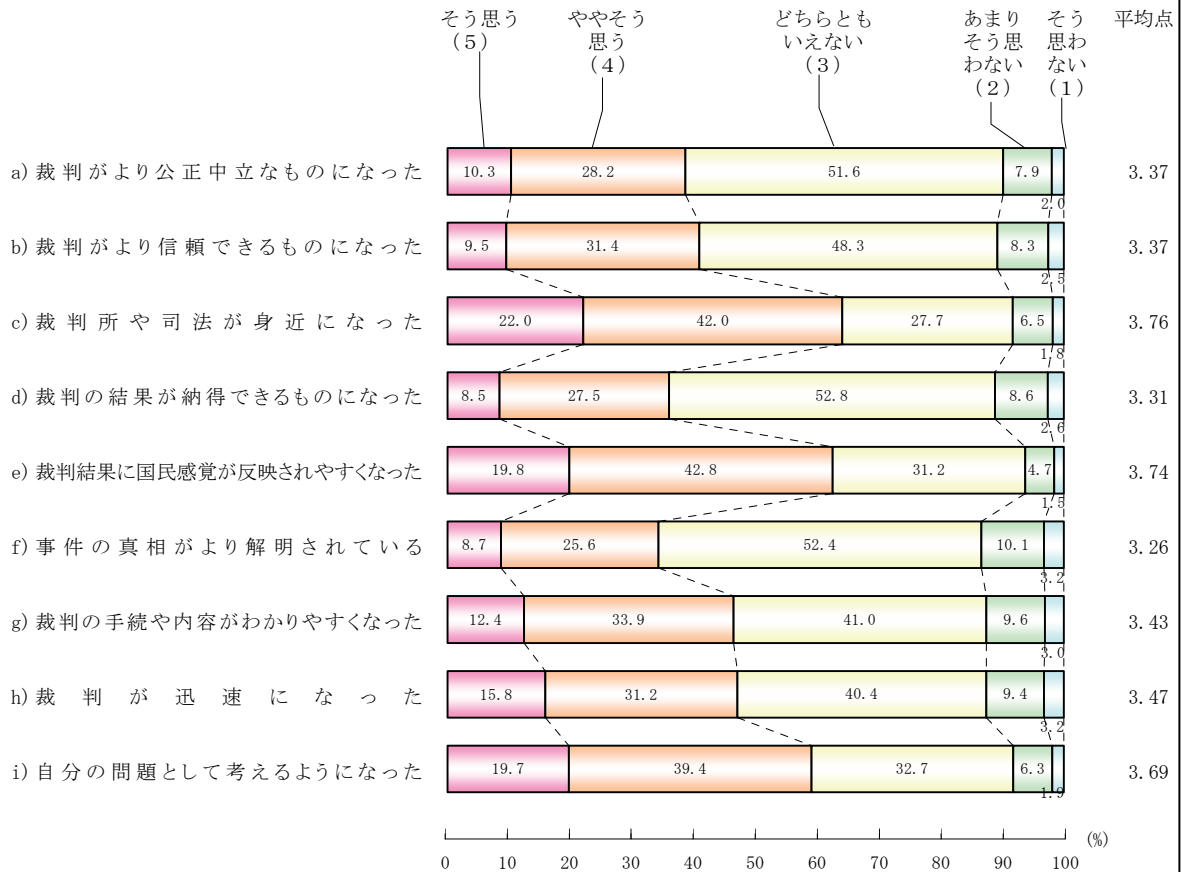


『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女での差はみられない。年齢別にみると、50代で最も高く、70歳以上で最も低い。

7 裁判員制度の実施後の変化

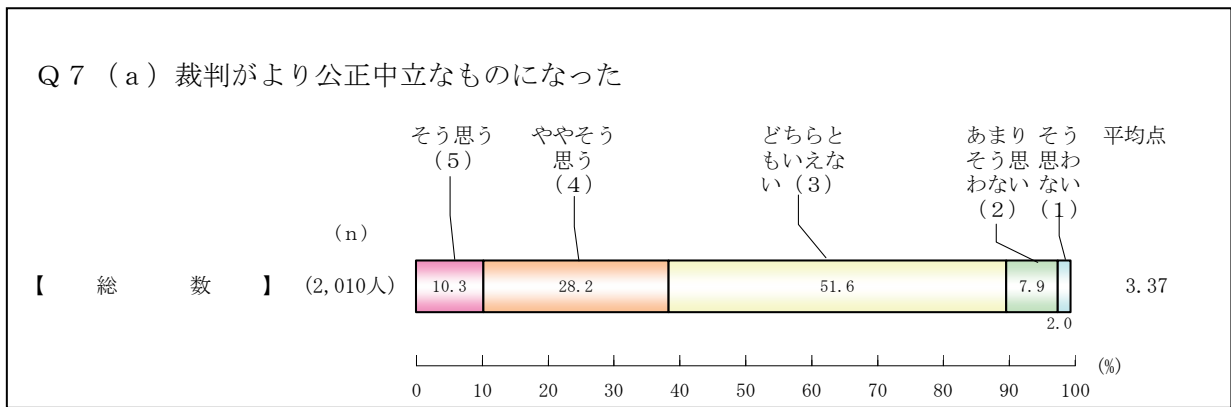
Q7 [回答票7] あなたは裁判員制度の実施後の変化について、どのような印象を持っていますか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。まず、「(a) 裁判がより公正中立なものになった」についてはどうですか。

(n=2010人)

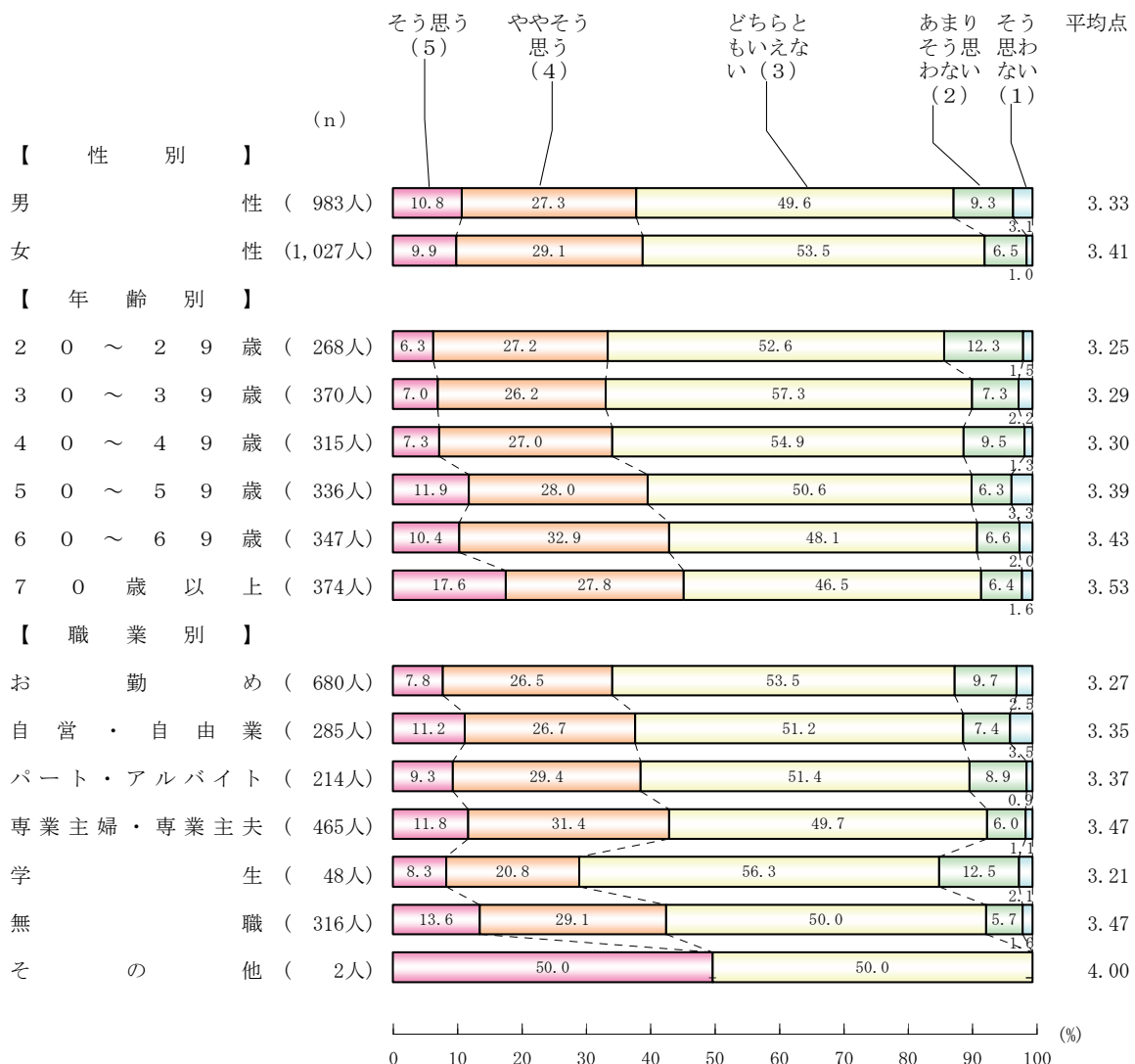


* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

裁判員制度の実施後の変化について、刑事裁判に対してどのような印象を持っているか、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判所や司法が身近になった』(3.76点)、以下、『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなった』(3.74点)、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』(3.69点)、『裁判が迅速になった』(3.47点)、『裁判の手続や内容がわかりやすくなった』(3.43点)、『裁判がより公正中立なものになった』(3.37点)、『裁判がより信頼できるものになった』(3.37点)、『裁判の結果(判断)がより納得できるものになった』(3.31点)、『事件の真相がより解明されている』(3.26点)となっている。

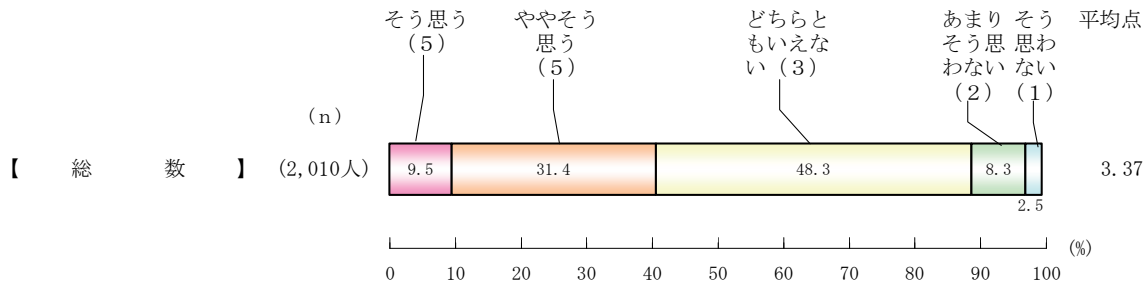


裁判員制度実施後の変化として『裁判がより公正中立なものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は38.5%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.9%である。

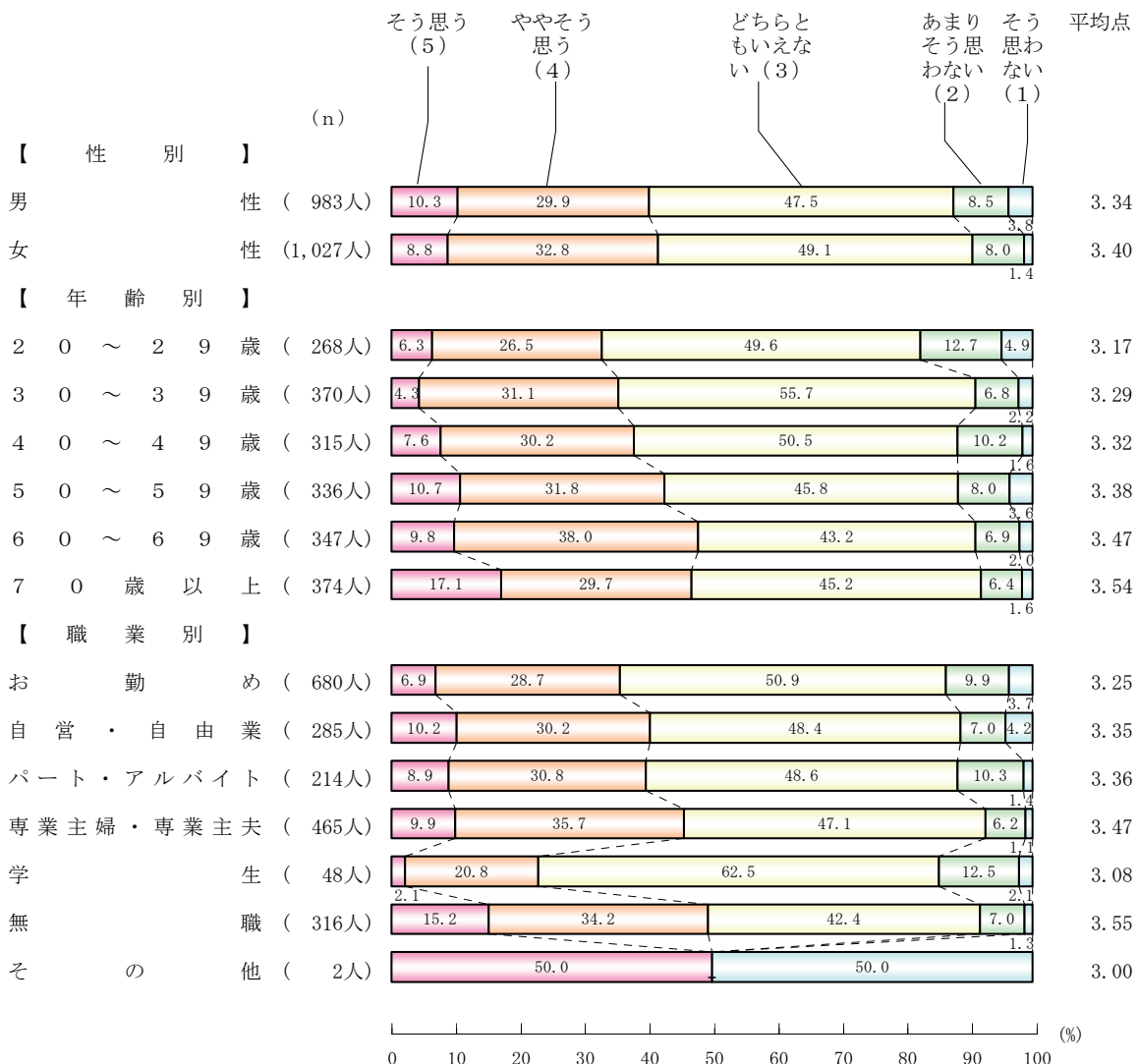


『裁判がより公正中立なものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女に目立った差はなく、年齢別にみると、60代・70歳以上の高齢層で高い。職業別にみると、専業主婦・専業主夫で高くなっている。

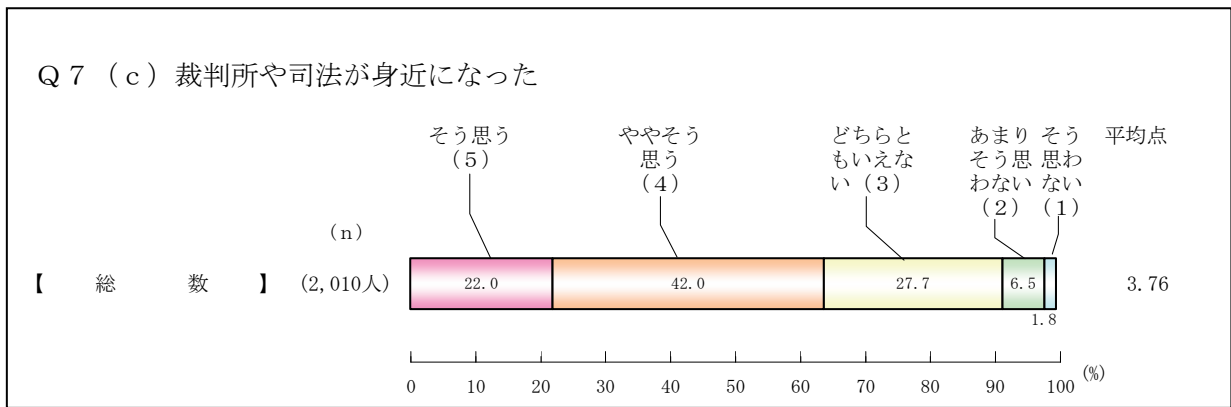
Q7 (b) 裁判がより信頼できるものになった



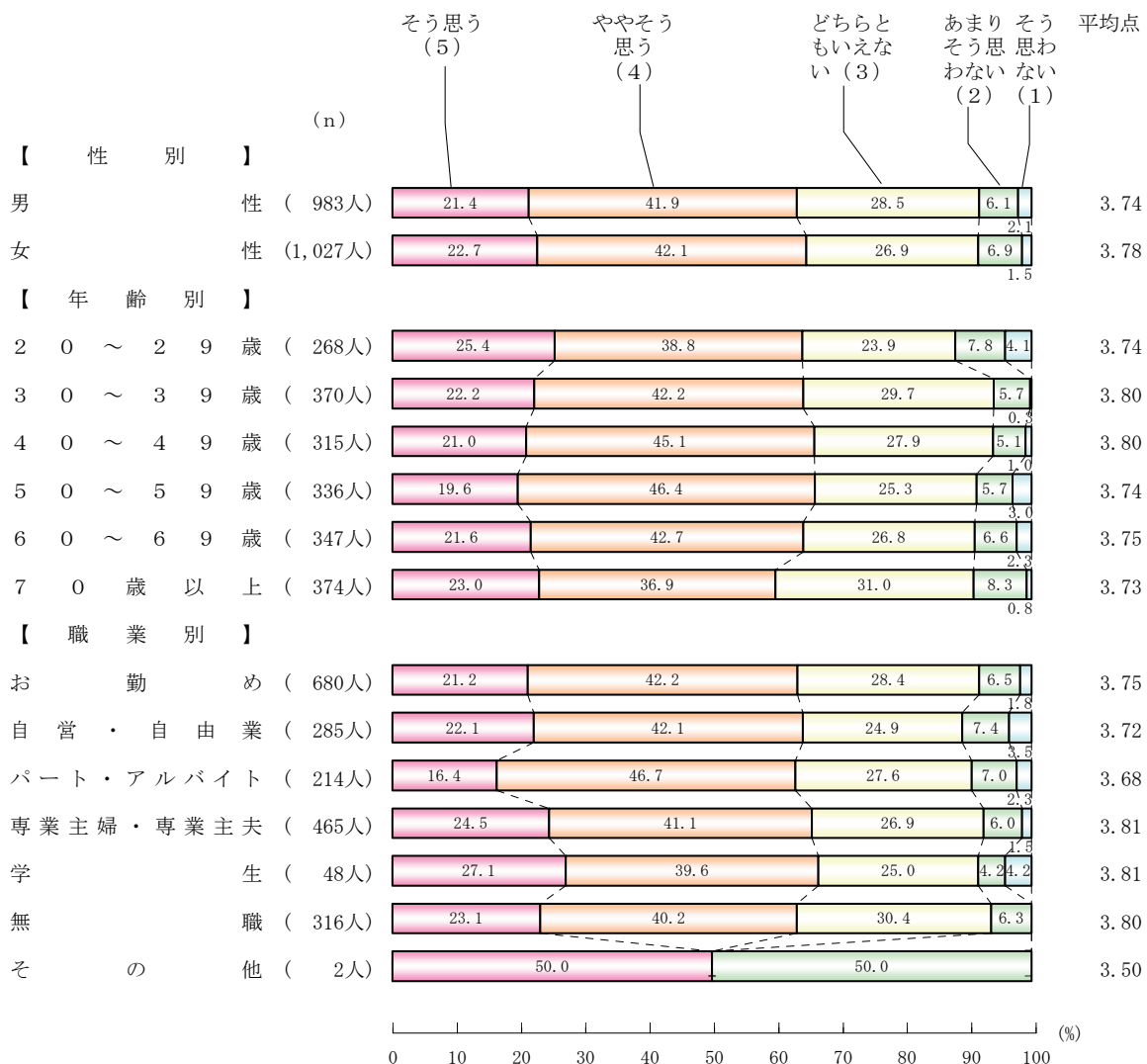
裁判員制度実施後の変化として『裁判がより信頼できるものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は40.9%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は10.8%である。



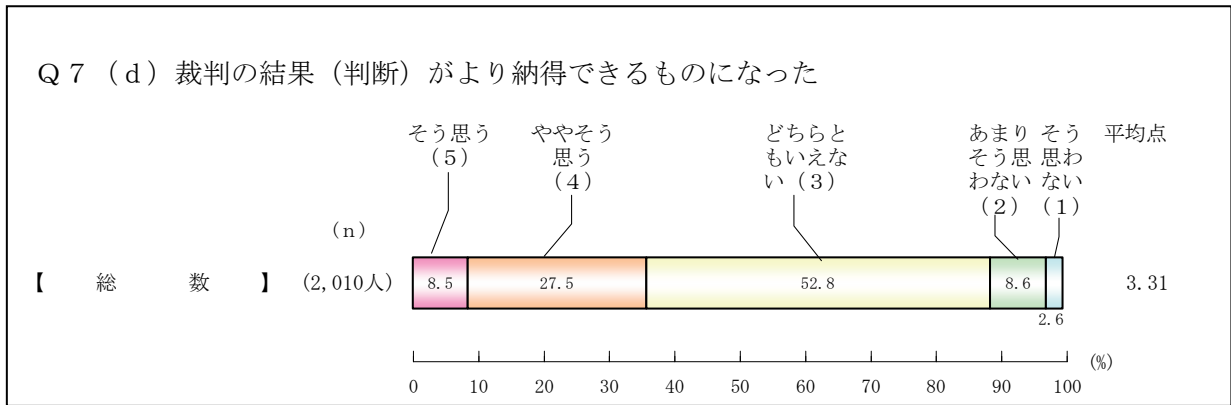
『裁判がより信頼できるものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女別にみると、男女に目立った差はない。年齢別にみると、20代・30代の若年層で低く、60代・70歳以上の高齢層で高い。職業別にみると、無職や専業主婦・専業主夫で高く、学生やお勤めでは低くなっている。



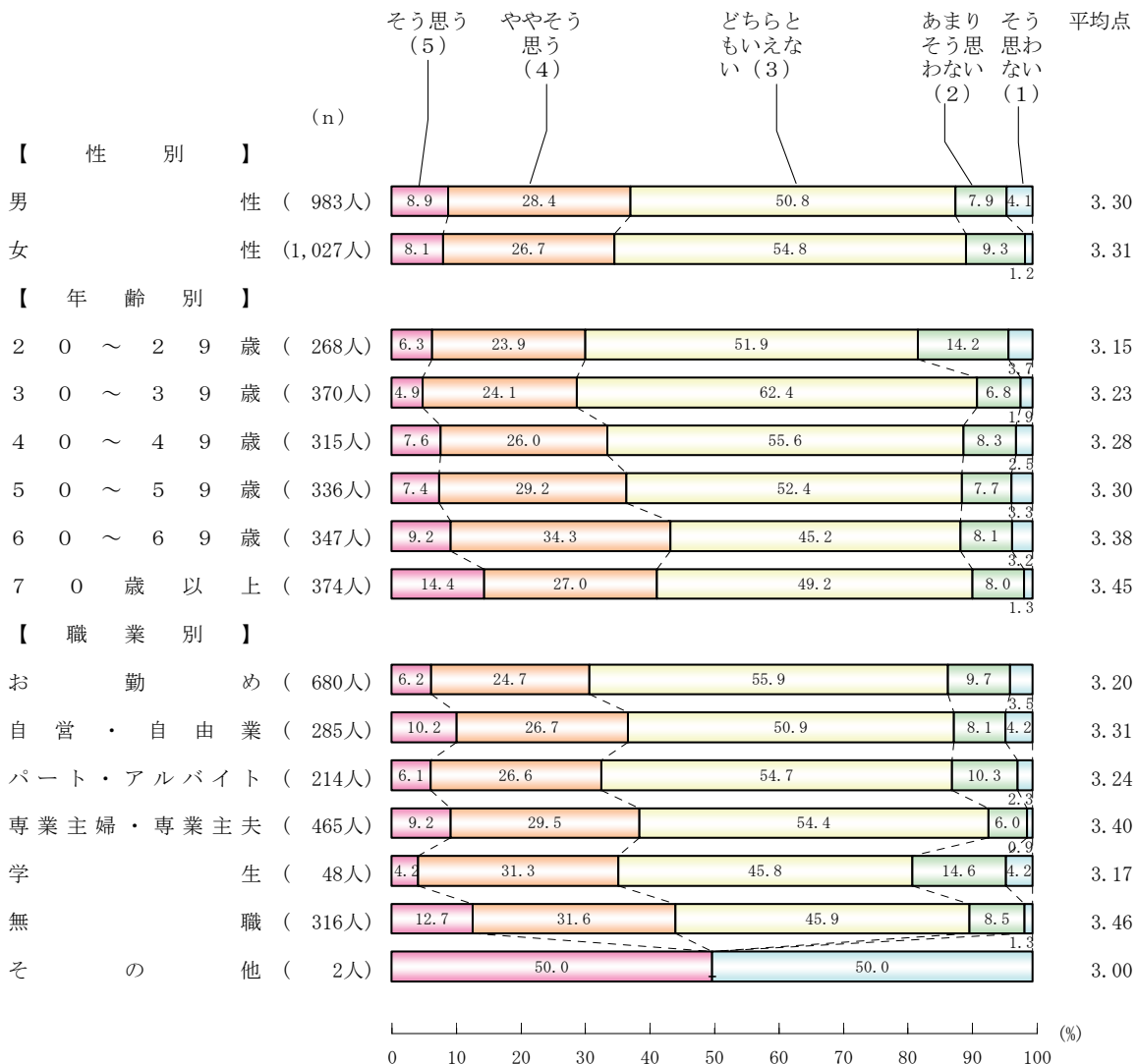
裁判員制度実施後の変化として『裁判所や司法が身近になった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は64.0%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は8.3%である。



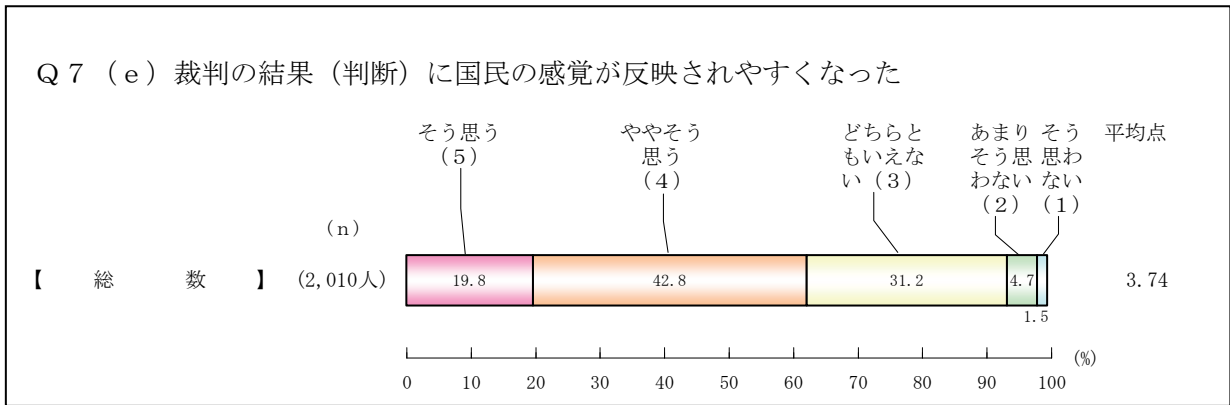
『裁判所や司法が身近になった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、性別・年齢別および職業別にみても各層の間に目立った差はない。



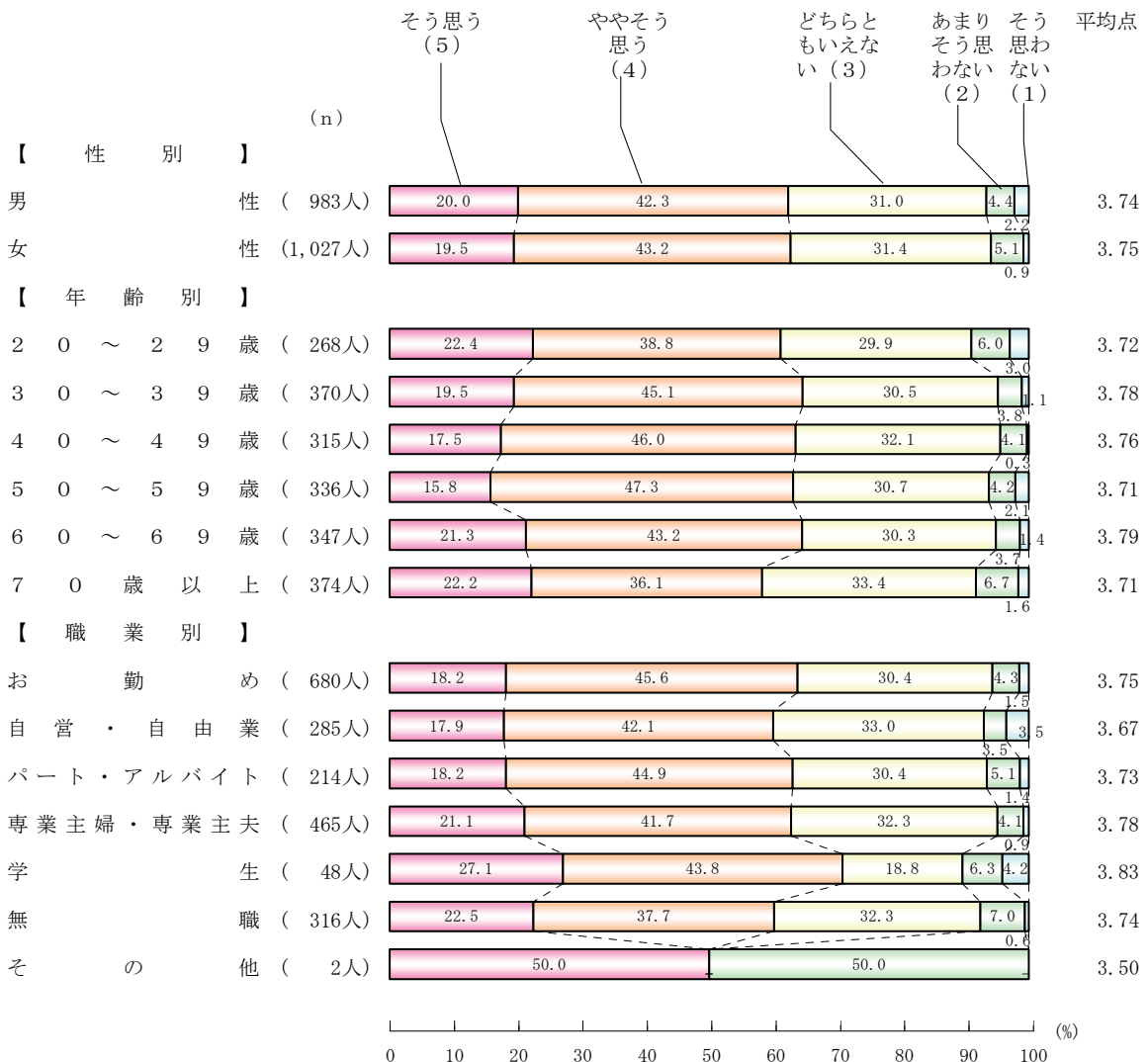
裁判員制度実施後の変化として『裁判の結果(判断)がより納得できるものになった』という印象では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は36.0%、一方、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は11.2%である。



『裁判の結果(判断)がより納得できるものになった』という印象について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えたのは、男女に目立った差はないが、年齢別にみると、20代・30代の若年層で低く、60代・70歳以上の高齢層で高い。職業別にみると、無職で最も高く、お勤めで最も低くなっている。

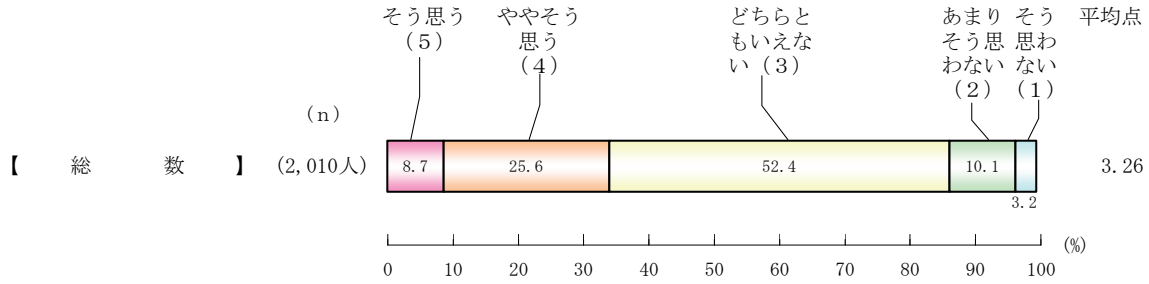


裁判員制度実施後の変化として『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなった』という印象では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は62.6%、一方、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は6.2%である。

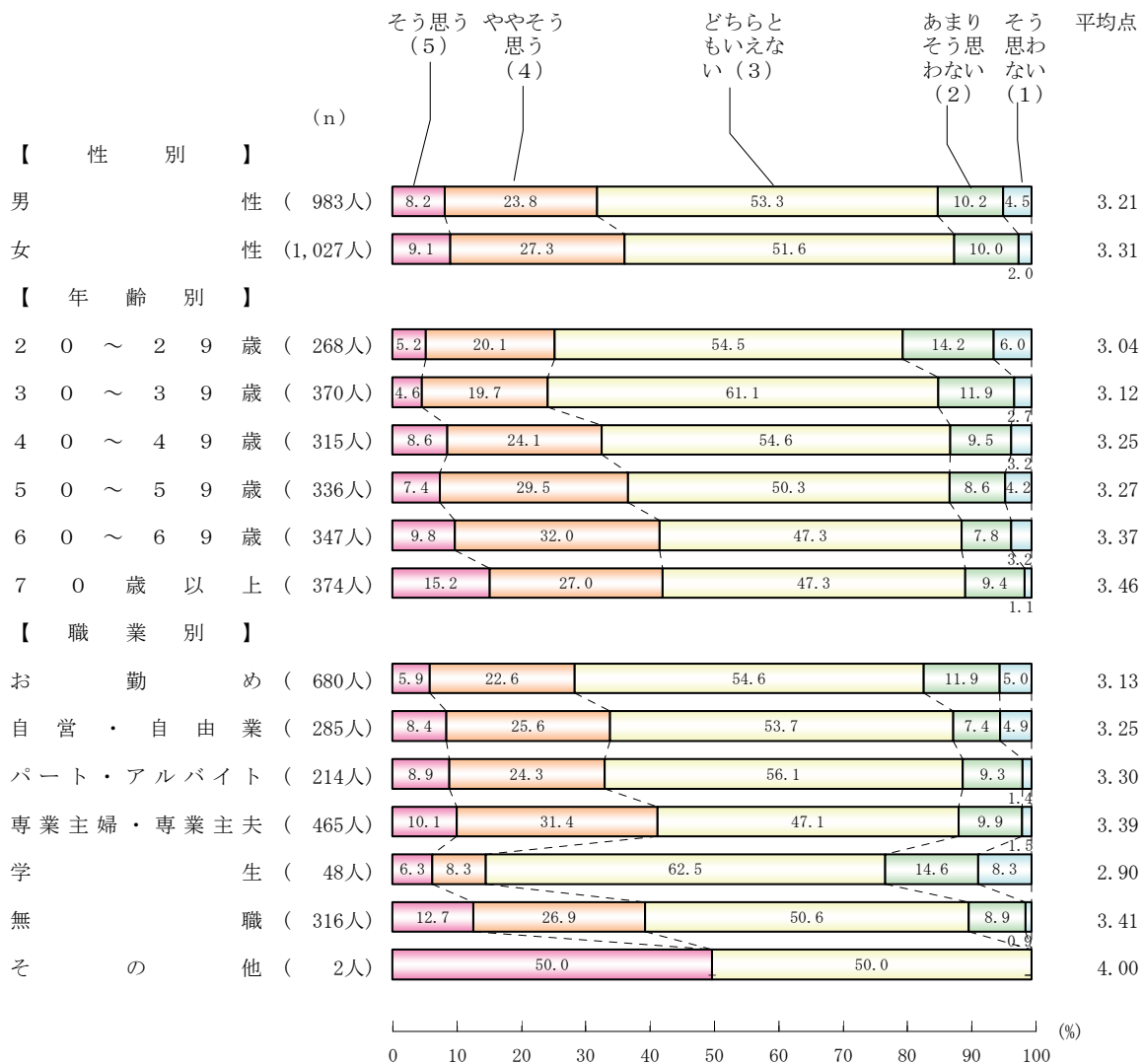


『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなった』という印象について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えたのは、性別・年齢別にみても各層の間に目立った差はない。

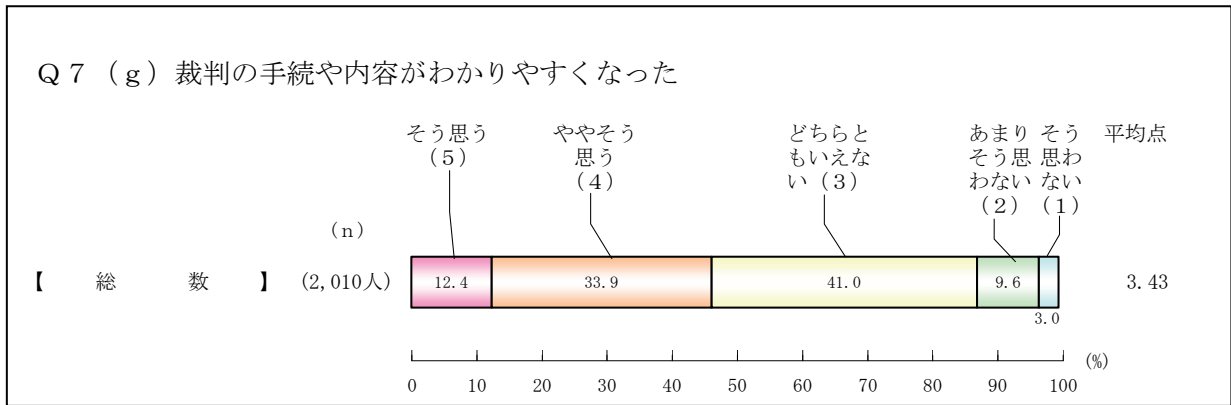
Q7 (f) 事件の真相がより解明されている



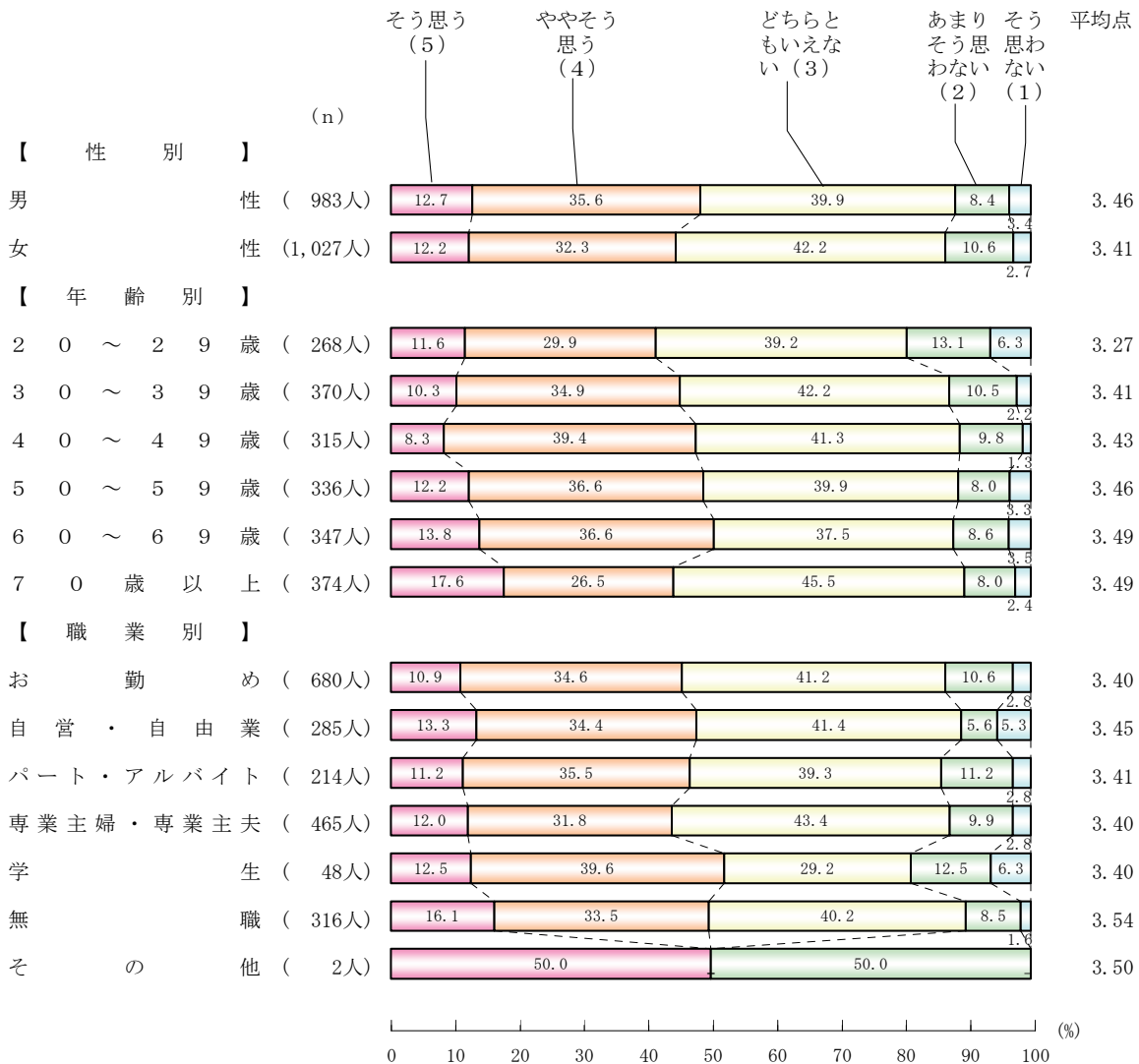
裁判員制度実施後の変化として『事件の真相がより解明されている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 34.3%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 13.3%である。



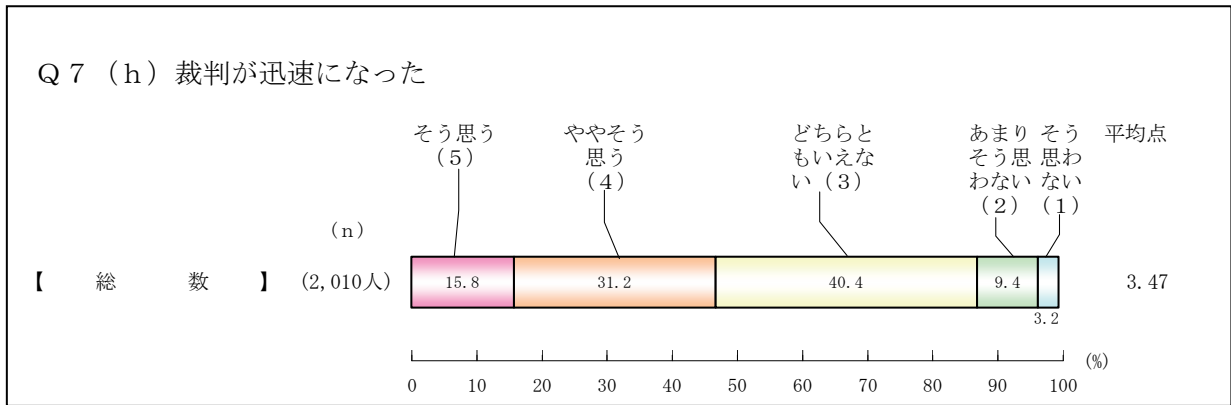
『事件の真相がより解明されている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、男女別にみると、男性より女性で高く、年齢別にみると、20代・30代の若年層で低く、60代・70歳以上の高齢層で高い。職業別にみると、専業主婦・専業主夫や無職で高く、お勤めや学生で低くなっている。



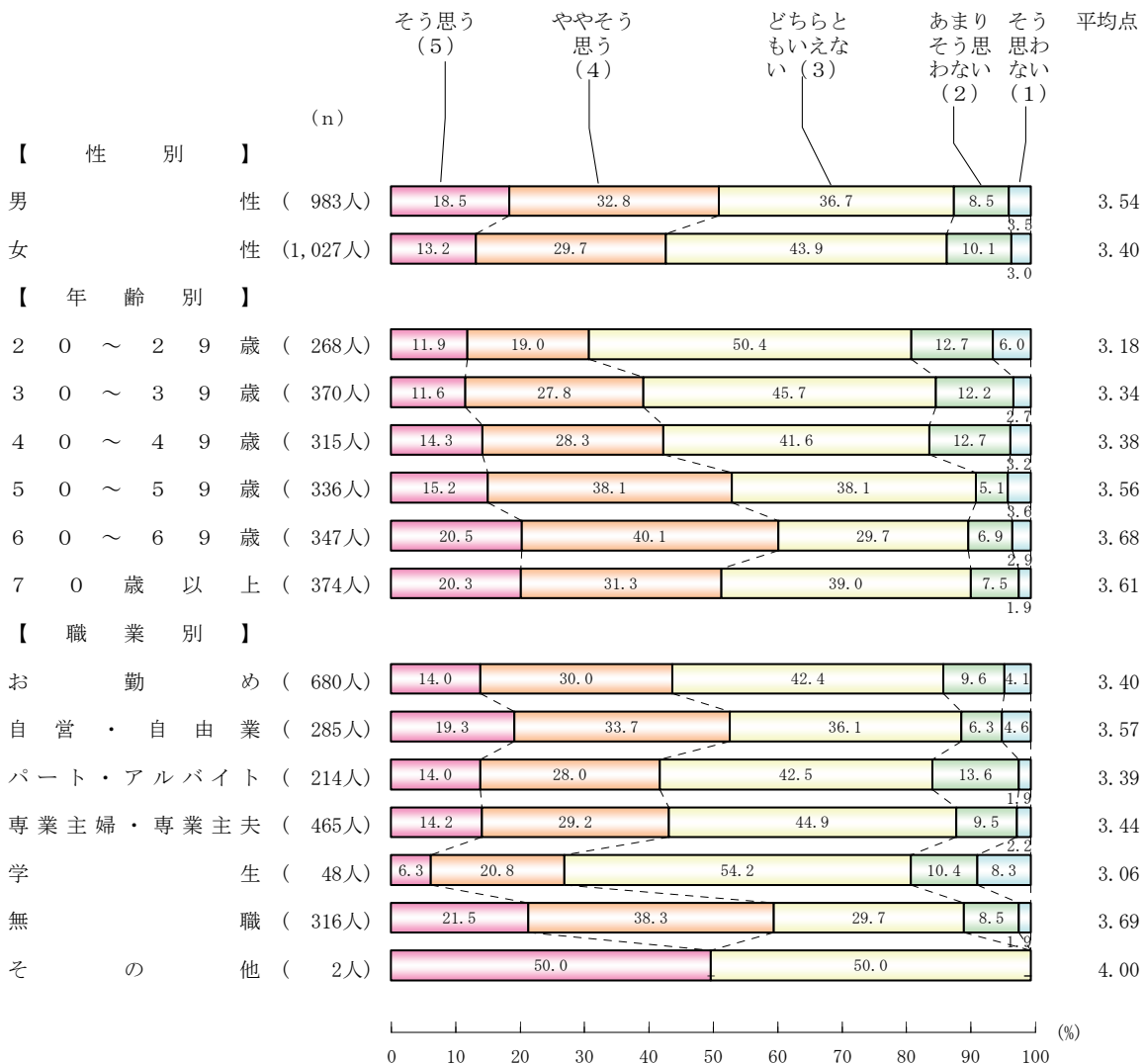
裁判員制度実施後の変化として『裁判の手續や内容がわかりやすくなった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は46.3%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.6%である。



『裁判の手續や内容がわかりやすくなった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは、性別・年齢別にみても各層の間に目立った差はない。

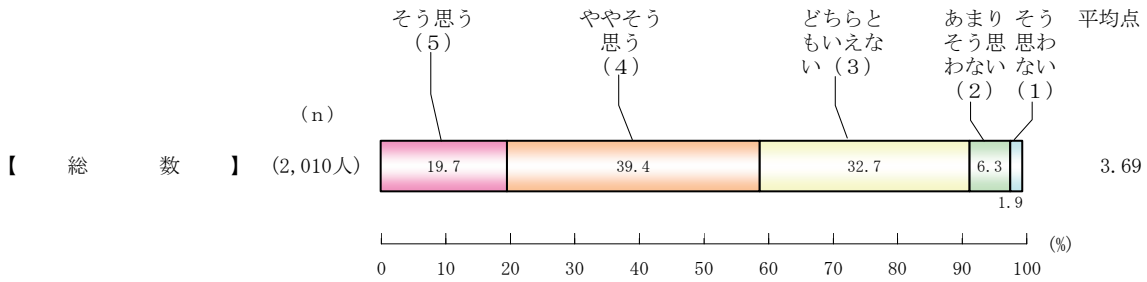


裁判員制度実施後の変化として『裁判が迅速になった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は47.0％，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.6％である。

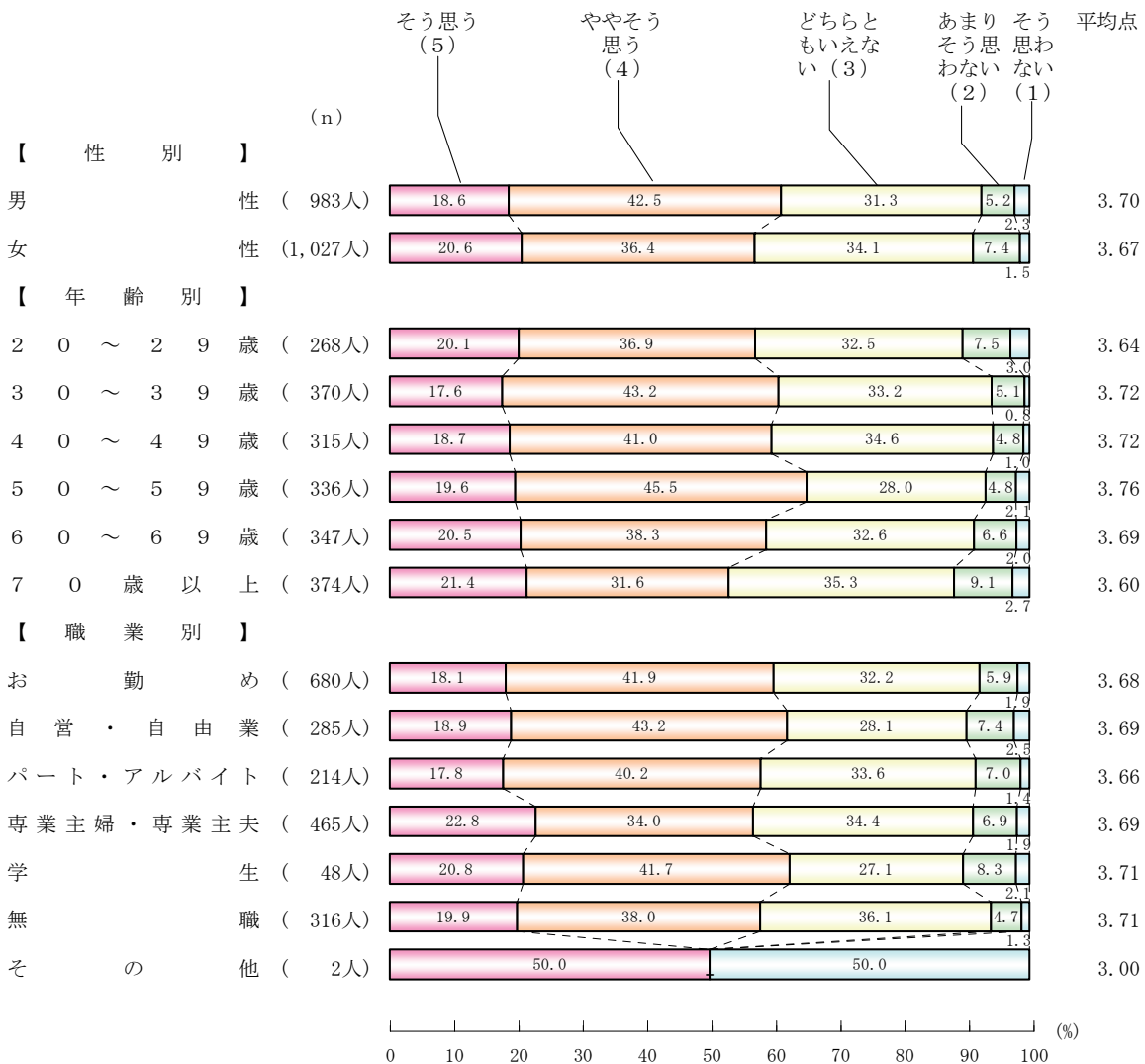


『裁判が迅速になった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えたのは，男女別にみると，女性よりも男性が高く，年齢別にみると，20代・30代の若年層で低く，50代・60代・70歳以上で高い。職業別にみると，無職や自営・自由業で高く，学生で低くなっている。

Q7 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった



裁判員制度実施後の変化として『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』という印象では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は59.1%，一方、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は8.2%である。



『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』という印象について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えたのは、男女に目立った差はないが、年齢別にみると、50代で最も高く、70歳以上で最も低くなっている。